



各賞受賞

第6回 エコプロダクツ大賞(環境大臣賞) 受賞 ～ 家庭用燃料電池「エネファーム」～

当社などが2009年度から世界に先駆けて国内市場での販売を開始した家庭用燃料電池「エネファーム」が、「第6回 エコプロダクツ大賞 エコプロダクツ部門 環境大臣賞」を受賞し、12月10日、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ 2009」の会場にて表彰式が行われた。

「エコプロダクツ大賞」は、環境負荷低減に配慮した優れた製品・サービスなどを表彰することで企業の取り組みを支援するとともに、正確な情報を消費者に広く伝えることを目的としている。

「エネファーム」は、お客様の認知度向上を目指して命名された家庭用燃料電池の業界統一名称であり、今回の受賞も、(株)ENEOS セルテック、(株)長府製作所、東京ガス(株)、大阪ガス(株)、東邦ガス(株)、パナソニック(株)、東芝燃料電池システム(株)との共同受賞である。



共同受賞各社の記念撮影
左から6人目 大谷 環境大臣政務官、7人目 当社 松村副社長、8人目 (株)ENEOS セルテック 一色 社長

ミライフが「ものづくり大賞」優秀賞を受賞

受賞業績：「特殊な紡糸技術による織物のような質感・高級感を持った軽量・高強度の不織布の開発」同賞は、日本の産業・文化を支えてきた「ものづくり」を継承・発展させるため、ものづくりを支える人材の意欲を高め、その存在を広く社会に知らしめることを目的に創設された。経済産業省、文部科学省、厚生労働省及び国土交通省の4省庁連携により、平成17年に第1回を開催し、その後2年に一度開催するとされている。

優秀賞(製品・技術開発部門)は、外観が織物に似た、全く新しいタイプの不織布を実現する技術を開発し、実用化に結びつけたことが評価されたものである。現在、ブラインド・壁紙・障子紙などのインテリア部材や、高級菓子包材・テープ基材などに利用されている。このほかにも、平滑で高い引張強度を持つことから、新たな分野への展開を図っていく。



左から中村社員、鈴木マネージャ(技術開発センター)、小林執行役員(新日石プラスト)、高原関東経済産業局長、三嶋マネージャ、松本部長(ミライフ事業部)



第4回世界トライボロジー会議で 環境製品をアピール

9月7日～9月11日の5日間、国立京都国際会館にて開催された『世界の省エネ・環境技術展』に於いて環境製品の展示を行った。本展示会は4年に一度開催されるWTC (World Tribology Congress = 世界トライボロジー会議：今回で4回目、日本では初開催) の附設展示会であり、学術講演会参加者および一般参加者、のべ7500名が参加した。また近隣の小中学生が校外学習として来場し、自動車会社、石油会社、部品会社などの展示により、日本のものづくりを支えているトライボロジー技術を体感した。

当社ブースではENEOSカラーを基調に、「エネゴリ君」をバックパネルに用い①エネファームの展示②環境配慮型潤滑油の紹介③子供科学教室による実演を行った。多くの子供たちが参加した子供科学教室では、燃料電池の実験や潤滑油の実験を行い、当社の環境に対する取り組みを十分にPRした。

(潤滑油研究所 工業用潤滑油グループ 小西 正三郎)

展示物	内容
エネファーム	家庭用燃料電池システム『エネファーム』の実物大模型の展示と当社の燃料電池への取り組みをDVDにて紹介した。
環境配慮型潤滑油	自動車用、工業用の環境配慮型潤滑油商品と関連研究を紹介した。
子供科学教室	当社の環境に対する取り組みを紹介し、燃料電池による発電・発熱や潤滑油による摩擦低減効果を体験・体感する実験を行った。



展示会場



子供科学教室に来場した小学生



校外学習参加者へのENEOSバッグの提供



ミニトライボロジー教室



環境展示会「エコプロダクツ2009」で 当社の環境技術をアピール

12月10日(木)～12日(土)に東京ビッグサイトで開催された題記展示会にブース出展し、合わせて同時開催シンポジウムを開催した。

今年で11回目の本展示会は、企業、自治体、行政、NPO・NGO、大学・研究機関などが多数参画し、一般市民も多く来場する、国内最大級の環境イベントである。今年のテーマは、環境技術で経済を立て直すことを目指した「問い直せ、日本の力 ソーシャルパワー元年」で、721の企業・団体が参加し、3日間の総入場者数は182,510人であった。

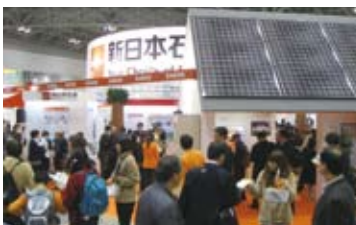
当社ブースでは、エネゴリくんキャラクターなども活用して、エネファーム、太陽光発電システムなどの当社環境ビジネスを中心に紹介し、昨年を上回る2万3,400人(昨年2万2,300人、5%増)をお迎えして、ビジネス層だけでなく、子どもや学生、主婦などの幅広い層に、当社グループの環境技術やサービスを強くアピールすることができた。

来場者からは、エネファームや太陽光発電システムについて多くの質問や問い合わせが寄せられ、また、当社説明員による「わが家で創エネ・プロジェクト」の解説に耳を傾けるお客様も多く見られた。

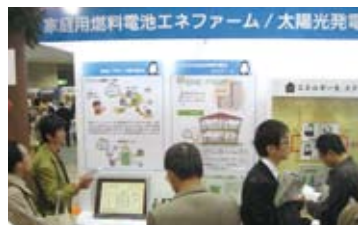
一方、展示会と同時開催されたシンポジウムでは、「創エネ」をテーマとして、最新エネルギー機器の魅力や、暮らしの中で実行できる温暖化対策などが話し合われ、有識者や著名人と共にパネリストとして参加した宇田川ホームエネルギー部長が、当社の「わが家で創エネ」プロジェクトや実証実験の結果などを紹介した。
(社会環境安全部 社会環境グループ 杉浦 出)

【当社の参加内容】

<p>1. ブース展示内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○展示 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭用燃料電池エネファーム ・太陽光発電システム ・わが家で創エネ・プロジェクト ・EVチャージステーション・プロジェクト ・バイオガソリン ・その他(ランダムCDM、環境貢献など) ○ブース企画 <ul style="list-style-type: none"> クイズ、アンケートにお応えいただいたお客様に、エネオスオリジナルのディズニーカレンダーまたはハーブのミニ栽培セットをプレゼント。 ○体験メニュー 当社ブースを取材してオリジナルエコ新聞を作成する体験 ○ステージパフォーマンス エネファームや太陽光発電システム、創エネハウスなどを楽しく紹介するステージ
<p>2. 同時開催シンポジウム“第5回女性が考えるエネルギーの未来シンポジウム「創エネ」で変わる暮らしのエネルギー”(当社協賛)(パネリスト)</p> <p>堀ちえみ氏(タレント・女優)、大庭みゆき氏(環境エネルギー総合研究所 代表取締役所長)、辰巳渚氏(家事塾主宰/文筆家・消費行動研究家)、宇田川博文氏(新日本石油 小売販売本部 ホームエネルギー部長)</p>
<p>3. その他(エコカー試乗会への協力)</p> <p>中央技術研究所で協力により、展示会で行われたエコカー試乗会に、燃料電池自動車「トヨタF CHV - adv」を貸し出し。</p>



賑わうブース



エネファームのパネルを見る来場者



エネゴリくんステージ



創エネハウスの説明を聞く来場者



パネリストとして宇田川ホームエネルギー部長が参加



民間13社による「水素供給・利用技術研究組合」が活動を開始

新日本石油株式会社、出光興産株式会社、岩谷産業株式会社、大阪ガス株式会社、コスモ石油株式会社、西部ガス株式会社、株式会社ジャパンエナジー、昭和シェル石油株式会社、大陽日酸株式会社、東京ガス株式会社、東邦ガス株式会社、日本エア・リキード株式会社、三菱化工機株式会社の13社は、水素供給インフラ・燃料電池自動車（FCV）の本格普及を目指して、活動を開始した。

FCVは、省エネルギーとCO₂排出量の大幅削減を実現する次世代自動車の本命であると云われているが、その普及にあたっては、水素充填ステーション等供給インフラの整備が不可欠である。

本研究組合では、参加企業各社がそれぞれ保有している水素の供給・利用に関する技術やノウハウを結集し、自動車メーカーとも一体となって、水素供給ビジネスの事業化に向けた供給安定性、経済合理性、環境適合性等を検証する計画で、最終的には2015年での事業化を目指している。今年度は、経産省「平成21年度水素利用社会システム構築実証事業」に採択され、「水素ハイウェイ」「水素タウン」に関する社会実証試験を推進する予定。（研究開発企画部 R&D 企画グループ 前田 征児）

水素供給・利用技術研究組合の概要

理事長	吉田 正寛（新日本石油株式会社 執行役員研究開発企画部長）
所在地	東京都港区虎ノ門一丁目2番6号
設立日	2009年7月31日
事業内容	社会実証試験を通じた水素供給ビジネスの検証 ① 水素供給インフラの設置・運営 ② 燃料電池自動車等、水素利用の管理運営
期間	2009～2015年度

社会実証試験の概要

